

第3回牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会議事録

日時：平成28年11月18日（金）13:00～17:00

場所：（第一部）高知県立牧野植物園 本館 映像ホール

（第二部）五台山竹林寺「書院」

出席者：[委員] 邑田委員長、受田副委員長、井上委員、海老塚委員、川崎委員、
北村委員、杉田委員、竹内委員、安田委員（9名）

[アドバイザー] 牧野氏（1名）

[オブザーバー] 高知市観光振興課、高知県観光政策課、高知県公園下水道課（3名）

[指定管理者] 公益財団法人高知県牧野記念財団（8名）

[事務局] 高知県林業振興・環境部長、高知県林業振興・環境部 副部長（総括）、
環境共生課（7名）

<第一部>

8Kスーパーハイビジョン番組「牧野植物ふしぎ図鑑」視聴

<第二部>

1 開会

2 高知県林業振興・環境部長挨拶

3 （報告事項）第二回検討委員会でのご意見について

4 議事

（1）第一期構想の素案及び第二期構想のイメージについて

（2）基本コンセプトについて

（3）その他

5 閉会

(事務局：林業振興・環境部長)

第一部の8Kだが、牧野植物園にて上映されており、せっかくの機会ということで観ていただいた。

8Kにより繊細なところまで見ることができ、牧野博士が当時、ああいう細かいところまできっちり見られて、植物の神秘に奥深く迫って行っている洞察力と、それぞれの細かい植物図として描かれているというところに感激した。

今回の磨き上げでも、牧野博士の本物をしっかり見せるということをしていけば、多くの方に感動を与えるような植物園にできていくと確信したところである。

今回の委員会は、牧野植物園の映像ホールが8Kの会場となっており、従来の会場が使えなかったところ、海老塚委員のご厚意により竹林寺を使わせていただけることとなった。

また、本日は牧野博士のひ孫にあられる、練馬区立牧野記念庭園記念館から牧野一淳様においでいただいている。

この度、検討委員会のアドバイザーとしてご就任いただいた。忌憚のないご意見をいただければと思っている。

第3回は、第1回、第2回の議論内容を踏まえて、第2回には事務局から観光振興への貢献、研究産業への貢献、教育への貢献という3本の柱について提案をさせていただいた。第2回における皆様からのいろいろなご意見を踏まえ項目を再整理して、3つの拠点を柱に説明をさせていただく。

できるだけ早く構想を実現していきたいと思っているため、今回の委員会でできるだけ早く取り組むべき対策についての承認をいただければと思っている。

(事務局)

今回の委員会を、五台山竹林寺で開催させていただけることになった。これまでの委員会の意見の中にも、五台山との連携ということが出ていたため、今回はこのような場所のできるのは大変貴重な機会だと考えている。

せっかくなので竹林寺の海老塚委員から五台山の紹介をいただきたい。

(海老塚委員)

今回、初めて竹林寺に入る方もいると思うので、少しご紹介したい。

竹林寺はあと8年したら、できてから1,300年という長い歴史がある。長い歴史の中で、数々のお堂であるとか、お宝であるとか、文化財といわれるものが今日座っているわけだが、本堂の文殊堂、これが国の重要文化財、これは、江戸の初め頃作られた。そして、書院は2月に国の重要文化財に指定された。今からちょうど200年前の文化13年にできた。これは、高知土佐の殿様の接待殿だった。殿様がおいでになった時のゲストハウスだった。ふすまの向こうが上段の間だった。上段から5段の構えになっていて、床の間が上段、今我々がいる場所が第3段である。さらに廊下から4段、5段となっていた。お付きのお侍

さんでも、畳の間まで入ってくる人、廊下で待つ人というふうに区分されていた。

こういった歴史的場所なので、いつもより高尚な意見が出るのではないかと考えている。

そして、周囲には、平成 16 年に国の名勝に指定された庭園がある。平成 18 年から今年度まで 10 年をかけて保存整備をしてきた。本来の姿に戻していこうとしており、この庭もかつては、昭和の初めに先々代の住職がきた時には一面笹藪だった。庭を觀賞するという時代ではなかったため、笹がはびこって自然に戻ろうとしていた。そして、笹を刈り込んでいったら庭が現れた、という時代もあった。

牧野植物園の南園はかつての竹林寺の寺城であり、かつては、学山という学問の寺であった。南園には坊塔頭、あるいは宿坊というよりは脇坊がたくさん建っていた。南園を 1.5 m ほど掘り下げていくと、鎌倉時代ぐらいの竹林寺の遺構が現れる。一度、南園を一面剥がしてかつての竹林寺を見てみたいと思う。

昔は、竹林寺と園は深いつながりがあった。かつて寺だったという植物園は日本全国どこを探してもどこにもないだろう。こういった五台山の長い歴史であるとか、竹林寺、植物園のつながりをうまく生かしながら、これからの整備につなげていただけたらと思う。

(事務局)

当検討委員会のアドバイザーにご就任いただいた牧野一淳様についてご紹介したい。

牧野様は、牧野富太郎博士が満 94 歳で亡くなられるまで約 30 年を過ごした東京都練馬区東大泉の邸宅と庭を整備して建てられた練馬区立牧野記念庭園記念館に、学芸員として務めている。牧野富太郎博士のひ孫さんであり、今回、貴重なご意見をいただけたらと思い、アドバイザーにご就任いただいた。

ご挨拶をお願いしたい。

(牧野アドバイザー)

富太郎が亡くなってから半世紀以上が経過した。現在、富太郎の関連の施設は、牧野植物園、首都大学の標本館、練馬区立牧野記念庭園記念館があり、顕彰施設というのは、時間がたつにつれて、パワーを失っていくということもあるが、幸いなことに富太郎の関連した施設は、ハード面、ソフト面合わせて大変パワフルに動いている。牧野植物園でも、新しいシチュエーションでこういう委員会を通じて新しい形が実行されている。遺族としては大変感謝しており、代表してお礼を申し上げたい。

現在、練馬区から委託を受けて、牧野記念庭園に係る企画展示の運営を行っており、年に 4 回、企画展を行っている。その中で、牧野植物園から資料をお借りして、館と館の連携という点では牧野記念庭園記念館が一番恩恵を受けている。この場を借りてお礼を申し上げる。

牧野記念庭園に関わってから、まだ年月が浅いため、大したご助言ができるかどうか分からないが、できる限りお話ししていきたい。

(事務局)

・資料の確認

・県で定めている審議会等の会議の公開に関する方針に基づいて、検討委員会での審議内容をホームページで公開することとなっている。会議での発言は録音しているのでご了承ください。

資料の中に第2回検討委員会の議事録があるので、ご確認いただき、もしも訂正、修正等があれば11月25日までに事務局にご連絡ください。

この後、議事に移る。議事進行は委員長にお願いしたい。

(委員長)

第3回の検討委員会ということで、資料にもあるように、前回いろいろなご意見をいただいたが、いよいよ具体的なところも出てきているため、大づかみに承認をいただき、県は事前の準備をしていかなければならないということで、忌憚のないところで意見を聞かせていただきながら、構想を詰めていくことになるかと思う。

早速だが、これまでに事務局が作成した素案について説明をしてもらい、それについてご意見をいただきたい。

(事務局：環境共生課長)

基本構想についてだが、第2回検討委員会で、3本の柱として、観光振興の貢献、研究産業化への貢献、教育への貢献に区分し、強みと弱みを洗い出し、牧野植物園のポテンシャルを引き出すための、ハード、ソフトの68項目について、早期に取り掛かるものと整備条件により少し時間のかかるものに分類しながら整備の方向性を示して、方向性について委員会の皆様のご了承をいただいた。

前回の資料については、参考資料1を見ていただきたい。

今回は、その整備項目をさらに検討し、第一期構想と第二期構想とに区分したので、第一期構想にかかる整備については、候補地を示して、委員の皆様からのご意見をいただき、それらの意見を盛り込んで事務局で取りまとめ、12月県議会へ第一期構想のまとめとして報告したいと考えている。

それでは、資料1をご覧いただきたい。

第2回の検討委員会で、3本の柱をさらにわかりやすくするための提案をいただいたことから、拠点という視点に着目しながら、再度、3つの拠点というものを柱だてしているところである。

左からシビックプライドの拠点、これは誇りや愛着を持つという拠点、イノベーションの知の拠点、これは外からの知、又、内からの知を融合しながら新しい知を創造するという拠点、宝の人材を育成する拠点という3つのわかりやすい言葉で整理した。

シビックプライドの拠点としては、子供から大人までが植物に親しみながら自由にのびのびと過ごすことができ、さらには、混々山から下方に広がる美しい50周年記念庭園の眺望が見渡せ、四季折々のニーズに合わせた多彩なフラワーイベントが可能となる仮称ファミリー園を新しく造成することとして、面積約1.7haの広さがあるが、回廊から南側の混々山の頂上までを候補地として提案したい。

資料2のイメージ図にあるローマ数字のⅠのAの場所だが、南園の50周年記念庭園から混々山に向かって北側の面と本館から南側の面の位置にある。

期待される効果として、多くの人々が自然の中でゆっくりと過ごすことができる場の提供による来園者の増加、50周年記念庭園が手狭になっているので、ここの新しい視点でフラワーイベントの実施が可能になり、フラワーイベントを開催することで、集客力のアップにもつながる。さらには、遠足、修学旅行での団体客、これを含めて増加が期待されると考えている。

続いて、宝の人材を育成する拠点だが、仮称スタディ園としている。これについては、子供たちが自然に親しみながら探求心を育む教育の場となり、第二の牧野博士を育む植物園を目指すものとして、子供から大人までが植物と触れ合いながら学んで遊べ、ニーズに合わせた体験型コースができるスタディ園を新しく造成することとして、面積約0.9ha程度の広さを有する、回廊から北側の緩斜面を候補地として提案したい。

資料2のイメージ図のローマ数字のⅡで示している、BとCをスタディ園として新しい園地にしたいと考えている。

期待される効果としては、これまでの植物園の鑑賞機能に加え、自然の中での学習の場を提供し、植物と触れ合うことによって、自らが気づき、学ぶことの喜びを知ることができるとともに、植物と人間の営みとの関わりを再発見し、生き物を大切にすることを育むことにもつながる。さらには、体験プログラムの充実を図ることで、ちぎって、触って、食べてといったことも体験できるような遠足、修学旅行の増加にもつながると考えている。

シビックプライドの拠点、イノベーションの拠点、宝の人材を育成する拠点の3つの機能が融合した形で、世界に誇る研究と、博士の本物のお宝を一般公開展示する機能を併設した仮称研究棟・お宝展示館を新設したいと考えている。

場所については、資料2イメージ図のローマ数字のⅢで示した、展示館の東隣にある仮称お宝展示館Dを考えている。

現在は頂上付近に薬用植物の苗畑があり、これを若干整備して利用する。

仮称研究棟・お宝展示館機能については、研究機能とお宝展示機能に区分している。また、市民、子供たちさらには研究者への開放といったことで、多くの方に見ていただけるための研究機能、オープンラボラトリー機能を備え、国内外の研究者の方々との共同研究や、研究の交流と研究者の学会等のコンベンションの開催を通じた、国内外の研究者との交流による研究水準の向上、本県における植物多様性保全に向けた研究の進展など、さらには大学との連携による大学生の利用拡大を目指していきたい。

研究成果の見える化、展示の機能も配備し、研究施設の見学の可能となる可視化スペース、研究施設の案内ガイド、併設するスタディ園体験学習との組み合わせ等も含めた、子供たちの研究体験や、研究者との交流、さらには、研究成果の展示発表のできる施設を備えたいと考えている。

もう一つの機能となるお宝展示機能については、博士のお宝展示の一般公開によって、植物の本質が学べるVR・8Kシアターとお宝展示スペースをセットで設置し、VRの圧倒的な臨場感や、驚異的な技で描かれた博士の植物図を高精細、臨場感あふれる体感をすることで、お宝展示の更なる魅力を増大させ、それらを連携させながら、園地に咲いている本物の植物を見ることにより、世界に誇れる牧野植物園に感動していただくものにしていきたい。

これらの施設機能新設に伴い、数々のソフト事業が必要となる。例えば、広報の強化、園内ガイドの充実、天候に左右されない企画展などにも取り組んでいく。

さらには、研究の産業化については、多くの研究者の拠点にふさわしい、海外産植物のエキシビションの加速、牧野ブランドの商品化など、研究成果の公開と情報発信にも力を入れていく。

現在の研究棟は資料2イメージ図のローマ数字ⅣのEで資源研究センターがあるが、ここは研究施設として実験器具や、栽培管理の職員、薬用植物の研究者がこの場所を使用しているが、築約40年たっており、現在耐震診断の調査を行っている。12月には耐震診断結果が出る。それが、耐震補強が必要なかどうかの報告をもって、耐震補強が必要な場合は、補強経費を含めて、研究棟、お宝展示館の新設の候補地を資源研究センターの位置とするのかを検討する必要がある。今回の候補地として説明した研究棟、お宝展示館の場所については保留となることを申し添えておく。

次にⅠからⅣまでの資料2のイメージ図についてである。

新しい動線を青い矢印で表示しているが、50周年記念庭園の資源研究センターのEのすぐ横に温室がある。そこから、研究センターの上の段のファミリー園、混々山を通過して、スタディ園に向かい、回廊を渡り、スタディ園、スタディ園のB、Cを通り、真ん中の一番出っ張った上のところの芝生広場がある。この広場に向かう動線、さらには、この芝生広場から展示館横を通り、薬用植物園、それを通り、今現在提案しているお宝展示館といった形で新しい動線ができるということで、東と西の有意義な周遊コースが新しくできるのではないかと、さらにこの部分も加味していきたいと考えている。

次に資料3だが、ファミリー園とスタディ園と研究棟、お宝展示館、この3つを見せ、イメージ図を掲載している。これはウインさんの方で幅広い情報をもとに、こういった形の配置ができる、さらに皆様からのご意見をいただきながら、ファミリー園の充実、スタディ園の充実、お宝展示館をどのように見せていくのか、という点について、ぜひご意見をいただきたいと思う。

最後の資料4だが、第二期構想、少々条件整備が整わないとなかなかできないという部

分がある。これも第一期構想の進捗を見据えながら取り組んでいくようにしたいと考えているが、現時点の第二期構想として、まず、第一点に牧野植物園にはバックヤードとして、一番西側にある長江圃場に約 1.7ha の 12 棟の温室、ビニールハウス 7 棟の合計 19 棟の施設がある。これが、南海トラフ地震による浸水地域になっているため、これの高台移転ということがあるが、これも候補地を見極める必要がある。よって、これは時間がかかるといことで、第二期構想として整備に取り掛かりたいと考えている。

それと、南園の入口、温室の際に通る道路であるが、幅員が 3.5m しかないため、車のすれ違いができないという狭隘問題がある。これもなんとか解消したい。

また、駐車場の拡張ということで、ゴールデンウィークやシルバーウィークについては、五台山公園の鹿の段まで大渋滞になるということ、これも一刻も早く解消したいが、これも駐車場の候補地の場所選定に時間がかかる。園内の整備状況と合わせながら、第二期構想で取り組んでいきたい。

第一期構想については、平成 30 年に牧野植物園が開園 60 周年記念を迎えることになる。ということで、できれば 60 周年記念の開園に間に合わせたいということで、平成 30 年の秋口をめどに取り組んでいきたい。

以上を第一期構想の説明とさせていただく。

ここで報告確認があるが、第二回検討委員会で F 委員より、ロープウェイと宿泊施設についてのシミュレーションはどうかというご意見をいただいていたので、その件についてご報告したい。

ウインさんに、全国の直近で事例を調べてもらったが、東京の江東区にロープウェイの開発事例がある。これによれば 10 人乗りのゴンドラで、ロープウェイ本体が 63 億円、諸経費が 31 億円、発着の施設経費が 7 億 3 千万円ということ、合計で約 100 億円程度かかるということである。延長で 1m 当たり 1 千万円程度の費用がかかるということになっている。

また、ランニングコストであるが、この施設に関してはランニングコストがないため、新神戸のランニングコストの事例を参考とした。それによると、1m 当たり 29 万円かかるとのことで、1,000m 必要ということになれば、約 2 億 9 千万円、1 年間におよそ 3 億円が維持経費にかかるということになる。

そこで、五台山公園と元にあった青柳橋をつなぐ区間が約 1,000m あるので、約 3 億円の維持経費がかかる。ランニングコストをペイするためには、例えばロープウェイの運賃を 1,000 円と仮定すると、約 30 万人の方に 1 年間乗っていただかないと、3 億円をペイすることができない。

宿泊施設についてもウインさんに事例を調べていただいたが、グレードをビジネスホテル並みと設定すると、約 25㎡のツインルームの空間と廊下の 10㎡を足した約 35㎡が標準ということである。また、高知県の学級クラスの生徒の数を割り出すと、約 1 学年に 2.7 クラス、約 3 クラスということになり、1 学年が修学旅行で使うとなれば、3 クラスの 40 人

なので120名となる。ツインに2人が泊まるとなれば約60室の部屋数が必要である。ということで、3階建ての3,000㎡程度のビジネスホテルクラスの宿泊施設が必要になる。事例等を鑑みると、約坪110万円ほどかかるということで、仮にこういう建物、RC構造の3階建て3,000㎡とすれば、約10億円程度建設費がかかってくるということである。ランニングコストにつきましては、資料が揃ったら提示したい。

宿泊施設もそうだが、ランニングコストが発生するので、これについては、民間のノウハウを入れながら、宿泊料金の設定等いろいろ出てくるかと思う。相当の料金が必要だと推察される。

ウインより模型の説明をお願いしたい。

(委託事業者)

検討委員会も3回目からは具体的な内容ということで、牧野の大きな敷地の特徴が、例えば長江のところがほぼ周辺の土地の高さとする、竹林寺付近で約130m高くなっている。広い敷地のため、130mもあるとは思えないかもしれない。それと、なかなか平坦部が少なかったりするもので、皆様のご意見をいただくのに模型を作成した。1,000分の1の大きさである。前に来て見ていただければと思う。

模型を用いて場所を説明

竹林寺がこのあたり、温室がこのあたり約1,000㎡ある。宿坊を建てるとすれば約1,000㎡ぐらいと相対的にみて検討を始めたところである。ファミリー園がまだ園の土地ではないがこの部分、スタディ園がこの部分、これが展示館、本館、第一回の開発も平場がなく、建築の内藤さんともどこにするかということで大変苦労した。あと、お宝展示館、資源研究センターの建て替えも検討されるが、この部分が唯一比較的平場がある。ただし、さらに東側に行くため、アクセスの問題等もあるが、皆様方に視覚的に見ていただきたい。模型を作成した。この模型は次の回にも持ってくる。皆様のご意見をいただきたい。

(委員長)

今の説明に対して何か不明な点、質問はあるか。

(A委員)

資料2の図面の、EからA、B、C、Dのルートを通っているが、新しい道を作るのか。かなり高低差があるような気がするが、どのような計画か。

(事務局：環境共生課長)

温室の南園の出口から、駐車場に行く道、混々山を通るルート、展示館をぐるっと通る

ルート、竹林寺さんの前の坂道を通って行く方がいるため、元に戻るというコースが全くないという状況である。そこで、資源研究センターに混々山へ誘導できる仕組みを作りたいと考え、確定ではないが、資料3にエレベーターをイメージして添付している。資源研究センターの前面にガラス張りのエレベーターを設置し、ガラス張りから50周年記念庭園、結網山の斜面まで見えるという形で、資源研究センターの2階にあがっていただく。資源研究センターの2階のルートを利用して、混々山へつなげ、ファミリー園へ上がるスロープの道を作ったらどうかということである。ファミリー園を通り、回廊に抜ける、そして本館に抜けるというルートをぜひ検討したいと考えている。また、資源研究センターにエレベーターができると、車椅子等の身障者の方が斜路を通って、駐車場まで行かなくてもよくなるということがある。

(A 委員)

ルートとしてはよくわかったが、混々山の1部に民地があると思う。これは避けられないのか。

(事務局：環境共生課長)

混々山は防風の植林があり、非常に風が強いと聞いている。全面的にカットするのは良くないと思うため、樹々を残しながら、また石垣も残しながら、支障のない範囲で作っていければよいかと考えている。

民地の話ですが、周辺は竹林寺の土地、混々山の山頂は私有地となっており、ファミリー園については所有者と交渉しており、やることを前提としている。

(B 委員)

第一回、第二回の検討委員会の中で基本コンセプトを話し合い、E委員に決めていただくという話になったが、あれはどうなったのか。

(事務局：環境共生課長)

次の議題においてコンセプトの話し合いをしたいと思う。

(C 委員)

観光型のフラワーパークではなく研究型の植物園が本筋にあるため、そこがぶれるといけませんが、一見のお客さんに対して、あまり知識のない観光客に対しての堅苦しくない遊びの要素は、今後年頭において考えてほしい。例えば、イメージ図のファミリー園の様な花が咲き乱れた写真のような園地もぜひお願いしたい。また、子供向けの遊具も充実させてもらいたい。ロープウェイが100億円、ランニングコストが3億円はとてもではないが無理だと思うが、他にジップラインなら、アスレチック的にはなるがコストが安いのでは

ないか。そのようなものがあったらいいと思う、遊びの要素を取り入れてもらえたらと個人的に思っている。

(委員長)

実質的に中身についての意見があったので、提案についての質問だけでなくご意見もいただきたい。最初に D 委員の拠点の話があり、3つに整理されている。これは、提案者としてよろしいか。

(D 委員)

イメージとして拠点で整理しており、非常にわかりやすくなっていると思う。ただ、まだ少し練り上げも必要。シビックプライドという言葉は出ているが、これも工夫の余地がある。イノベーションの拠点という言葉は色んなところで使われているので、この言葉は腹落ちはいいが、3つ目の宝の人材の材の字を財宝の財に変えるという考え方もあると思う。このあたりで少し工夫が必要だと思う。全体を通して基本コンセプトの話が出てきて、それに合う要素をどのように盛り込むかということになると思う。まず柱の3つとしては、私はこれで整理されたと思っている。

(委員長)

具体的に実施することは説明いただいたように、子供園とファミリー園を拡張するのと、オープンラボなど機能を含めた建物を1つ新設するのがハード的には大きいですが、それについてどう考えるか。それ以外の事でも話していただいて意見がでた、ということでもよろしいか。特にこんなものはいらないとなれば計画を変更していかなければならないので、優先的におっしゃっていただいて、作るならばこんなものにしてほしいとその次に考えていく。場所の使い方やいらぬものがあればご意見が欲しい。

(E 委員)

皆さんも一緒だと思うが、黙ってしまうような状況になってしまうので口火を切る。

まず、資料1を見て、第一回、第二回の各専門分野の委員がおっしゃった意見はすべて盛り込まれているだろうと思う。それはいいことだと思うが、疑問は予算比重である。シビックプライドに何億、イノベーションの拠点に何億、宝の人材を育成するに何億。施設なら、具体的に3つの施設にいくらなのか。逆にソフトの部分にいくらなのか。その予算配分がどうなるのか、1つに多く予算をつけるのか、平等に30億毎なのか。重要度や比重がどうなっているのかがまだわからない。それは皆さんの話し合いなのかなとは思いますが、全てを網羅されてるが比重はどうなってるのかと思う。

比重を考える時に、特にハード面における投資とリターンの考え方。リターンをどのような形にするのか。ハードを作って何をリターンするのか。難しい話だと思うが、大切な

県の税金を使うのである程度明確化されてないと議会も県民も納得しない。納得してもらえる投資とリターンを県庁、県知事、我々14人がどう考えるべきなのか。

1つめは意見が網羅されてるのは素晴らしい。2つめは投資とリターン。3つ目は比重を考えた時に、投資とリターンという考え方をしないと県民に申し訳ないのかなと思う。この3つが考えられた。この3つを総合的に考えると、B委員がおっしゃったように、県知事からいただいた世界に誇るという言葉の誇るという部分が何なのかということを感じた。

(F 委員)

ロープウェイの投資と算段は非常に明確に分かった。第一期構想は全部やってしまう考えなのか。この構想の金額は算出されているのか。

(事務局：林業振興・環境部長)

規模が決まっていないのでざっくりではあるが考えている。そこは財政サイドと考え始めたばかり。ただ、磨き上げ、世界に誇る植物園ということでやるべきことはしっかりとやれと、知事からも言われている。我々もこの委員会の意見を踏まえてしっかりやっていきたい。

比重については、研究機能。お宝展示館機能について、3つの拠点それぞれが重要と考えている。どの分野にどれくらい配分するということではなく、それぞれの分野を生かす為に必要なかということで、お金についてはとりあえず置いておく考えである。だが、そうも言ってもらえないので財政サイドと話をする中で投資とリターンの話は出ている。県民の税金を投入するので、それなりに投資とリターンは必要だと議論はしている。その議論の中では、多くの方に来ていただくのが一番で、特に県外から来てもらえる宿泊やお土産の購入でいろんな効果が生まれるので、できるだけ県外の方を多く呼び込めるものにしたいと考えてるところ。

(E 委員)

比重はどう決めるのか、リターンは目に見えない物もある。最後の発言で、知事の観光の4番バッターという発言もあるが、県外のお客さんの場合、明確な数字が出る。そこに予算を多く賭けるなら、比重の弱いところは予算を削らないといけないようになるので、バランスを取るのが難しそうだ。

(D 委員)

核心の部分を議論し始めていると思う。この後、基本コンセプトを議論していくことがE委員から投げかけられた意見に対する答えにもなってくるだろうと思う。ただ、今の段階でこの議論に私が入らない方がいいと思うのは、来園者数にこだわりすぎると、例えば一見さんをここに呼び込む、クルーズ船のキラコンテナにするということになれば、世

界に誇れる牧野植物園としての価値はいかかなものかというところもあると思う。投資とリターンに対するどんな風なポートフォリオを描いていくのかとなった時にイノベーションの拠点として無限の価値を創出できるような拠点機能もあり、もっと価値の高い人材を育成していくのかという拠点機能、カウントできない、なかなかリターンを試算できないものが3つの内の2つになっていく。ここをしっかりと我々としては提示していかなければならない。前段の部分で、シビックプライドとすれば結果的に何が起こるのか考えていき、目的に対して結果こうなるという議論を是非していただきたいと思う。後ほどまた発言する。

(委員長)

昨日の林業振興・環境部長との発言や意見を紹介してよろしいか。

林業振興・環境部長から、お金を使うからには見返りも求めているという話をうかがった。高知県に観光客が来て一泊すれば26,000円の経済効果があるので、牧野植物園を遠方から見に来る拠点になればいいという話があった。それに対して私は、その話は非常に大きな話で、植物園の一部をどうにかするだけではなかなか実現できないことなので、この五台山全体をそのようなサイトにしないと実現できないのではと申し上げた。

ファミリー園とスタディ園は非常に大きな面積になっているが、これをやることについては、県外者よりも県民にもっと楽しんでもらいたい。そのことによって、ここはいい所というイメージを県民に与える効果があると思うので、開園60周年の事業としてできるのかということがある。お宝展示館を作るとなればこのルート(本館から展示館を繋ぐルート)を博物館的な学問のコースとすれば、家族が自然に親しむルート(ファミリー園からスタディ園を繋ぐルート)のこの2つが十字に交差している。そのような意味を全体で作り上げることができるか、このような考えでこのルートを仕上げていくのもいい考えだと思った。このような意味があったとしてここで、説明されていることが使う学校側からどう思われるのか意見が聞きたい。お宝展示館にセミナー室のような機能を持たせるとしたら、1回に何人使用できるのが現実的なのか。30~50人を1クラスとすると、学校単位で使用する場合、もっと席数は必要なのか。それによって必要面積も変わると思う。

(G委員)

すごく子供たちのための施設のイメージがあつてありがたいのだが、これに引きずられてはいけないと思う。お宝展示館は大きくできるなら、大きい方がよいと思うが、例えば、全体で発表する場合は150~200席くらいあればいいと思う。どんなメニューがあるのかで、学校側はそれに分散してローテーションも考えるだろう。大事なことは、どんな年齢の学童、学生でも実際に体験できる、第二、第三の牧野博士の育成で、植物学を勉強したい人や、牧野博士の志を考えて自分を鑑みるなど、植物だけにこだわっていない生き方、志を高める、科学への関心を高める、そんな施設であればよい。キッズニアのような体験施設

のように、実際に白衣を着て標本を作るなど子供研究所のような、前回には合った文言だがそういったものがあればすごくいいと思う。

遠足に限らず、授業、夏休みの体験学習、修学旅行などで使える。キッズニアのような職業体験ができればよい。

スタディ園は非常に良いが中身はどうなるのか。植物をちぎって食べるだけなのか。ただそこにあるだけではもったいない。ファミリー園は名前からのんびりしているイメージを受ける。先ほど8Kの映像をみて息を呑む美しさだと思った。花の咲き乱れる園地にしてほしい。フランスのフィガロに紹介された写真は本当に牧野植物園なのか。どこなのか。こんな景色があったのかと思うような写真である。花のいい時期を合成したのか。

(牧野記念財団)

フラワーイベントをやっていた時の写真である。

(G 委員)

牧野植物園はこんなに素晴らしいのかと思った。ファミリー園の名前が引かかるが、この様な圧倒的に美しい園地なら子供たちも喜ぶと思う。感性を磨きたいと感じると思う。

(H 委員)

大した話ではないが、ファミリー園を見た時、子供連れの立場からこのような税金の使われ方は非常にありがたいと思った。うちの娘が、小学校1年生の遠足で牧野植物園に行った。何度か連れて来たことはあったが、遠足から帰って来て、「ママ、今日は凄い所に行った。部屋の中に滝が流れておっきな葉っぱがあった。今度ママを連れて行ってあげるから、友達家族も誘って行こうよ。」と言われ、1週間後に行った。

子供がわくわくしており、「ママ目を瞑って」と、手を握って温室に連れていかれた。子供の1つ1つの説明がすごくキラキラして楽しそうで、こんなに素敵なものが牧野植物園にはあるんだと再認識した。

何か子供がキラキラして楽しそうなものがファミリー園、スタディ園にただの公園でなく、わくわくキラキラがあるものに仕上がってほしいと思う。

(B 委員)

園の志はどこにあるのか。志は世界に誇る園となるために高い。しかし、人々から親しまれ支持される園という考え方も大事だと思う。過去2回の委員会があり、園の視察を行って、その中での思いは表れているのではないかと思う。現に遠足で言えば確実に少なくなっている。南園が整備され、土佐弁でいうほたこえる(暴れられる)場がなくなったことも影響してるのだろうと思う。なので、スタディ園やファミリー園を整備してもらいたい。お宝展示館もいいことだと思う。ただ、8Kを見に行くために植物園に行くのではなく、

8 Kは手段である。園の目的は園地で植物の不思議に触れること。8 Kを通して本物の植物の不思議に触れる。そういった仕組みになっていったらいいと思う。今後、資料館や研究棟館を建築するのに是非ご検討いただきたい。

また、本年度の建築学会賞を竹林寺の施設(納骨堂)が受賞した。建築に興味のある方が五台山に来る。牧野植物園には内藤廣の建築がある。建築の切り口からもこの山は魅力のあるものになっていく。内藤廣先生にさらに設計してもらってもよし、日本を代表するような建築家に建ててもらってもまた大事なかなと思う。ゴルフ場のカートのようなものがあればよい。園地が広く勾配もあるので、園地を楽しんで回れるものがあったらいいのかもしれない。

ロープウェイの話が出たが、確かに費用がかかる。かつて竹林寺線というバス路線があった。そのようなものを復活させる案や、コンベンションさんが運営している MY 遊バスと合わせてそういったものがあれば、これからの時代エコにつながる。駐車場をたくさんつくるのではなくて、バスや公共交通手段を上手く繋げていくのもやり方かもしれないと思う。そんな意味でもファミリー園、スタディ園の整備を楽しみにしている。

(F 委員)

いろんな意見を出しあった後に、全て悪くはないと思うものの、何かワクワクする気持ちだとか、カッコイイやオシャレだとか、ファミリー園などネーミングは仮の名だろうがそういったものを感じない。牧野植物園に植物ファンでない方が来る理由は内藤廣さんの建築による部分が多い。展示のデザインのオシャレさだとか。他に規模が大きな植物園はたくさんあるが、牧野植物園の魅力は建物である。レストランも観光にとって大きい部分なので、委員会の意見でも出たサラダバーのようなものを出すなど。建築をもう一度内藤廣さんに相談するのもありだと思う。もう少し、デザイン性や美しさを、日本で一番洗練された植物園の洗練という部分をデザインという考え方をに入れていくともう少しカッコイイのものになっていくのではないかと思った。

(D 委員)

F 委員の意見に大いに賛成する。いろんなものをパッチワークするのは一番最悪なシナリオであり、どこか特徴があり、それが明確になって訴求されていくのが素晴らしい形。世界に誇れるや世界一という言葉が出ているので、目指すべきは接客も含めて世界一を目指す。シャワー効果という言葉を使うが、世界一を目指すことでトップから波及効果がさらに広がる。この五台山はご本尊文殊菩薩様がいらっしゃって、高知を生み出した聖なる山であり、そこの頂点から広がっている様々なものがあり、その頂点を目指すものは誇りの結集であり、そこからイノベティブなものがさらに作り上げられ、人材の創出の宝庫である、といった感じで全ての超一流、世界一を牧野の建築も含めて目指していくというのは1つの考え方だと思う。

特に、先日佐川町にお邪魔して、名教館など人材創出の拠点であることを色々と学んだ。その1人が牧野博士だということ、幕末維新の名士が佐川で育ったことや、医師の世界においても極めて優秀な人材を輩出してるだとか。そのような話をそっくりそのまま、ここで再現していくとなるとやるべき事は見えてくるのかなと思う。

もう1つ、私は研究者の立場もあって、いずれは園長の話も聞きたいと思う。研究者が集うとなると、誇りの場所では、国際シンポジウムを開催し、バンケットも含めて夜景を眺めながら大いにディスカッションが展開されていくような場所がここでできるといいなと思う。そうすると、ビジネスホテルではないのではないか。さっきの話でサラダバーの話があったが、洞爺湖サミットの話をするとういんザーホテルがあって、ミッシェルブランさんがいて野菜の魔術師がいる。そこから食に関する頂点が広がるとすればさっきの話もつじつまがあうのではないかと思う。ウインザーホテルのようなものがあれば、コストはかかるが、リターンは何を得るのかという議論があるにしても世界の超一流がこの山に広がっている。そういう形があればワクワクがあるのではないかと話を聞いていた。接客も超一流。

(E 委員)

非常にいいお話が聞けたと思っている。F委員の意見のカッコイイというのはすごく大事で、D委員のパッチワークの様に張り付けたというのはかっこ悪いだろうと思う。財力が豊富にあれば全部の分野をかっこよくすればいいが、無限にはないと思ったときに、最初の話に戻るが、1に全てが網羅されていて素晴らしい。2に比重はどうするのか。リターンの質も考えてリターンのカッコよさというのもあると思う。比重とリターンの所をどう考えるかが、基本コンセプトを何案に絞るかにつながる。絞らない手もあるが、絞った方がいいのかなと思う。

ただ、学校のお子さん達が、高いモチベーションを持つのも素晴らしいリターンだし、地域の人が集うのもすごいリターン。命の秘密みたいなことを、みんなが学べる、憩える安らげるのもリターン。障害を持つ人が働けるのもリターン。

県庁からすると、無限に財力はないというところはあると思う。委員は理想を全部言わないといけないが、最後の判断は難しいだろう。14人の委員はそこをどうまとめていくべきか。

(委員長)

昨日まではそうは思っていなかったが、第一期構想と第二期構想の内訳を見ると第二期構想はあまりにも小さい、第一期構想は急ぎすぎな感じがして、第一期構想はお祭りだから急がなきゃという目に見えるもの。気持ちは分かるが、最初に体力をつけないといけないと申し上げたが、道や駐車場などの基本的なところ。例えば建物を建てるにしても道がなければ行けない。全体構想を作ったうえでここは道を整備しとかなないといけないという

ようなことを進める事も重要。午前中に職員と歩いていた時に、「そもそも五台山には水がない。ここでたくさん水を使うと苦情を言われる。」との話を聞いた。山に新しい水道管をあげることは、今後、圃場を上に移転するとき水がなければ圃場は成り立たないので、水がふんだんに使えないと実験できない。この様な基本的な事を第0期としてやるということも将来構想の土台として、早くやっていただいたほうがよいのではないか。建物デザインの話だが、あと2年でお宝展示館を建てるとしてそれがどの程度詰められるのか。

第一期構想に間に合うのかは非常に切実な問題。そのようなものができれば、我々も非常に嬉しいし、園の魅力も更に上がることは間違いない。それによって人がどれくらい増えるかは別の問題かもしれないが。ただ四角い建物を建てるよりは、デザイン的にも機能的にもいいものを考えたらいいのではないか。

(F 委員)

道と駐車場の話がでたが、道と駐車場を整備しない方法もあるのではないかと考えている。遍路道を歩いて牧野植物園に行くのは非常にいい道である。もっと整備してアプローチを楽しむ、アプローチを含んだ遠足は子供たちにもちょうどよい山なので、昔は野球をするような場所があったが、今回、再整備されそうなのでこういうアプローチの仕方があってもよいのではないか。車で行かない価値がこれからの時代の価値ではないかと思うし、牧野富太郎博士だってこれ以上道を広げて植生を狂わせアスファルトを増やすよりも、このまま緑を増やすほうが、博士の考えに合致するのではないか。その方が洗練された植物園なんじゃないかという気がする。だが渋滞して大変とのこと。現状も何とか工夫して。上高地は上手くやっている、マイカー規制をして観光地の価値を増しているのが、最近のトレンドではないか。選べるのがよい。

(A 委員)

駐車場の件だが、現在の敷地だけで考えるから敷地がなくなる。もっと別の場所を探るのもあるのではないか。資料3の右手の段々の部分もあるし、道路を整備する方向も考えていけばいい。あるいは、買収の問題も出てくると思うが。現在の敷地のみで考えるとやっぱり五台山に駐車場を構えないといけない、というようなことになろうかと思う。

私は最初に、現在の何が悪いのか、一体何を変えたいのか、という事を申し上げた。しかし、徐々に植物園が変わってきているような気はする。それは何かと言えば研究の成果を表に出しているということ。もう一点は、この前も問題になったが、私は年に1回は五台山小学校4年生の子供たちと一緒に上がってきて植物園を見る。子供たちが展示館に行ってクイズを楽しむ。クイズを解くには展示の中の内容を見なければ解けない。学校は時間が来ると早く帰ろうとするが、子どもたちはまだもっと見ようとする。素晴らしいイベントを行っていると思う。こういったものを増やしていけば子供たちは興味を持ち、楽しめると思う。

私は現在進めてるものをより進める。県外のお客さんが観光に来て見るところは牧野植物園だけでない。色んな予定があるので植物園を見る時間は非常に少ない。見どころをまとめたコースを作る。季節ごとや、時間ごとに作る。2時間ぐらいのコースを構えると観光客は楽しめるのではないか。民地を買収するような考えがあるなら、駐車場は第二期になっているが、駐車場も含めて別の土地を考えたらどうかという気がする。

(F 委員)

ややロープウェイにこだわっているが、昭和 44 年から昭和 55 年までロープウェイはあった。当時の記事によると工費は1億8千万円、昭和 44 年当時の物価である。県の試算は百億円でしたね。そんなに、物価はあがっていないと思うし、テクノロジーの発達はあると思うが、当時初の空中バスとしてロープウェイができて非常に人気を集め、ピーク時に11万7千人が5万7千人に半減して潰れた。現存していた頃は青柳橋の西詰めに駐車場があり満杯だった。夏は頂上レストランのビアガーデンが人気で遅くまで華やいた、と記事にある。つまり、飲食代が落ちている。これは重要である。お寺もあり、不謹慎ではあるがお山の上に登って行くと緑いっぱいの環境でお酒が飲める。私も牧野植物園のレストランでハイネケンを1杯飲むのが楽しみだ。これも1つの形だと思う。

(G 委員)

教育方面ばかりになるが話をさせてほしい。設計上の面で質問があり、1. ファミリー園は誰でも楽しめるエリアだと思うが、駐車場から直接行くことができるのか。2. 以前のプレゼンの時にスカイウォークのような空中散歩ができる写真が載っていたがどうなったのか。3. ソフト面のお願いだが子どもたちが知識を得るだけでなく、実際に自分で解決していく学習は印象に残り身になる。ガイドさんの充実と同時に、子どもが参加型の例えば ICT を使いスマホやタブレットをかざすと植物の名前や情報が園地のどこを撮っても出てくる、牧野博士のエピソードも一緒にでてくれば子供たちは自分たちから行動し、植物もエピソードも学べる。最後に撮ったものが小冊子としてお土産になれば、話を聞くだけでなく、自分たちが行動し参加型の一番新しい形態を提案していただけたらいいと思う。4. 起伏があつてお年寄りや子供は大変。夏は日陰がない。空中が無理なら地下道の可能性はないのか。地下から屋外に出ると風景が広がっているのはいいのではないかと思う。

(委員長)

今の質問について何か回答されるか。まだ構想中であるか。

(事務局：環境共生課長)

たくさん提案していただきありがとうございます。
まず、駐車場からファミリー園に抜けられるかについてだが、基本的に高校生以下は無料

で入場料はいらぬが、駐車場からすぐ行けると便利だが、園の管理もあるのでフリーで行くのは難しい。数年前に夜中に迷子になって探したが1人で山を下って家に帰りついてた事があった。園の財団の人や警察も動いて大変だった。抜け道があり、この様な事例もあるのでオープンファミリー園は難しいと思うが検討はする。

空中ブリッジの案は、いくつか混々山と結網山を結ぶ案が浮上はしているが、竹林寺が背景になり景観上いかなものかという意見が予想されることもあるので進んでいない。イメージは皆さんで持っている状況である。

現在、牧野記念財団でW i - F i の整備が進められており、あとはアプリの開発、スタンプラリーも含めてできると思う。先日、指定管理者事業評価委員会で愛知県の東山動植物園の園長さんに来ていただいた。

同園は子どもたちの写真がブリクラの様になったり、動物も見られる、飼育員さんの餌やりなどの活動がモニターできるといったアプリを開発済みである。アプリについて色々聞かせてもらい、牧野でもインバウンド対策も含めていろいろな検討をお願いしているところである。

最後に、起伏があるので地下道を作る案について、案として出ているが表面の見える範囲で頑張ろうということになっている。

(委員長)

そろそろコンセプトにいかないと検討時間を過ぎてしまうので、特にご意見が無ければ今回の意見を含めた第二次案を次回までに出していただくという事でよいか。土地の下交渉も有るという事なので、ファミリー園とスタディ園を開発するという事で具体的に検討していただいてよろしいか。

私の個人的な考えだが、サービスするのは維持費がかかり、同じ花をずっと展示しても飽きられてしまうので、ますます何かやらないといけないサイクルに陥る。色んなことをクリエイティブに行う場を提供する方がいいのではないかと思う。例えば、どんぐりを拾って自由に何か作るとか、大きな枝を使って何かを組み立てるとか、そのようなことを自分の発想でできる事で楽しんでもらうのも一つの方向。昨日、環境共生課長に雨の日に来る計画をしたが雨だからやめよう、というのは非常にもったいないので、シンプルに屋根を造って雨宿りできる施設を作ってはどうかと申し上げた。

(事務局：林業振興・環境部長)

今の委員長のまとめでいくと、まずは、ファミリー園、スタディ園はOKであるが、その他についてはもう少し練る必要があるという感じに受け取ったが、県としてはファミリー園、スタディ園の整備をスタートするにしても、総務部に対して牧野植物園の磨き上げが今後どうなるのか、大まかな全体像をしっかりと説明をしないと議会に予算案を提出しても承認いただけないという事情がある。

今回示している内容については、本日のご意見を踏まえさらに磨き上げを行っていくが、この方向で進めていくなかでバージョンアップの余地もあるが、第三回の検討委員会で磨き上げの方向性について大筋の了承は得られたという解釈をさせていただいてよいのかどうか、ここは分岐点になるのでよろしくお願ひしたい。

(委員長)

さらに付け加えれば、ファミリー園、スタディ園で活動するだけでは物足りないかもしれないため、これを有効に活用する仕組みを建物にも含められるといいのではないかと思う。教室の様なものを整備するのであれば、東京に都民カレッジや区民カレッジがあり、一年中講座が行われている。有料ではあるが、講師を呼んでそこで生徒を募集するとほとんどのクラスが申込み開始と同時に一杯になる。植物だけでなく、動物や文学も学べる場所としても使えて、植物を食べたり標本を作ったり、ここ（ファミリー園やスタディ園）の場所から建物に移って何かできる一体感があれば価値が高まるのではないかと考えていた。

(事務局：林業振興・環境部長)

再度、今回示した内容と今回いただいたご意見を踏まえて、県に対して、「この方向で更に磨き上げを進めてほしい。」というような事をこの委員会の中で一旦取りまとめをお願いしたい。

(委員長)

何か決めないと身動きが取れないという事ですか。

(E 委員)

まとめに入ると、2つを進めることは議会を含めてやらないといけないのだろうなという気がするが、そこが何を理想として目指すのかの内容がまだわからないということがあがる。ファミリー園はどの様なものを目指すのか、スタディ園はどの様なものを目指すのか、まだ議論されていないため、そこを第四回の時に提示していただひて検討するというのはどうか。

(委員長)

具体的な使い方ですね。どういう使い方をすればどうなるかを当てはめていく事は必要だと思う。

(事務局：林業振興・環境部長)

(ファミリー園、スタディ園の整備予算案について) 議会に説明する際に、ファミリー

園、スタディ園だけの話ではなく、その後どうなるのか、先が見えないと判断できないと思われるし、私自身、全体としてこのような事を考えていると説明しないと承認は難しくなる。今回出した案に委員会として一定の判断をいただけるのか。

おっしゃられたようにファミリー園、スタディ園は具体的に何をやるのか、内容の磨き上げは行っていく。夢は語るが実際何を行うかは次回に示す。

(委員長)

具体的には資料1のファミリー園の機能と期待される効果、スタディ園の機能と期待される効果がこれでよければ、この様に説明するという事でよろしいか。

(事務局：林業振興・環境部長)

はい。その他にも、「仮称の研究棟やお宝展示館などを整備して牧野植物園をさらに世界に誇れるように磨き上げていきます」と説明をしていく必要があると考えている。

ただ、委員会としてそれは無理だという事になれば、ファミリー園、スタディ園のスタートを断念しなければならない状況である。一定の全体の説明ができないとご判断がいただけないと思う。

(D 委員)

林業振興・環境部長が言われるのは資料1の基本構想ですよね。この全体像について委員会でコンセンサスを得られるのが一番の理想で、具体的な予算を議会对応も含めて優先順位をどうつけるのか。第一期、第二期の話はあるが、これはまだここで予算も含めて確定する話ではないと思う。我々に求められているのは、整備基本構想のゴール、デザイン的のところも含めてこの方向で良いのかを問われている。もどかしいのは、本来基本コンセプトがあって計画が全体的にしっかりと落とし込まれている形になるべきだということ。基本コンセプトの話はもう少し皆さんで議論したうえで、結論の部分をもう一度確認されてはどうかと思う。委員長どうでしょうか。

(委員長)

難しい話である。

(B 委員)

確かに難しい話だと思う。どんな志を持ってやっていくのか。その中で具体的な展開が出てくる。コンセプトについては、説明いただいて検討できたらと思う。

(F 委員)

なぜ議論をそこから始めなかったのかというのは議会日程等で焦っているのだろう。予

算計画をしておかないと進められないからだろう。

(委員長)

それでは、Eさんにお考えをいただいている所があるという事なので、基本構想についてお願いしたい。

(E委員)

Dさんがおっしゃったように、私もこれはすごく上手くまとまっていると思う。大元の基本コンセプトがはっきり絞られていたら、ここの比重配分も多分すぐ分かるんだろうが、第一回、第二回とそういった話を皆さんが予算なしの状態ですべてしていた。委員長と副委員長には事前にちょっとお断りをして、私の意見ではなく皆さんの一回目と二回目のご意見を短い言葉で基本コンセプト文としてまとめたものを12個考えてみた。

本当にまったく比重も無視であり、それぞれの委員の方にはそれぞれの大切なものがある、というのはなるべく公平に並べたほうがよいのではないかと、議事が進むんじゃないかという事で考えたものなので、押し付けではなく、これを叩き台にさせていただきたいかと思う。

そうすると、この表の中で基本コンセプトが1つなのか、或いは3つあってもいいかもしれないが、そうするとどういう比重になるのかという事で進むというパターンもあるんじゃないかというような考えがある。この間、F委員にもD委員にも「こういうコンセプトとかはEさんの得意分野ではないか。」という事を言われたので、何かをしなきゃいけないんだろうなと高知県人特有のおせっかい好きな所が出た。最初に言っておきたいのは、皆さんにこれをちゃんと公平に検討していただいて、14人としてどういうものが1番いいのかという話をさせてもらいたい。

時間も迫っているため、早口になってしまうが、資料を見ていただくと「牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会 委員長、D委員、I委員はじめ全13人の委員の皆様へ」という事を出している。続いて「第3回検討委員会がスムーズに進行されることを願って」という事で、1つ目に「仮設・状況解説図」、私たち委員14人はどういう状況に置かれているのだろうかという事を説明している。それから先ほど申したように、2つ目は12個の仮の叩き台を出している。

次のページをご覧ください。少し細かい文章で申し訳ない。これは皆さんに宛てたお手紙という感じである。

(配布資料内容の読み上げ)

第2回の検討委員会で、委員長から「メールでの情報共有で意見をうけ賜る仕組みの検討を」とのご発言があったので、まずは書面自体がこれにふさわしいのか、事務局経由に

て

1. 委員長に提出させていただき検討していただきたい。
2. 委員長のご判断で D 委員、I 委員のご判断も必要となれば両名にも検討していただきたい。
3. 1 及び 2 を経て委員への公開が OK となれば、事務局より配信いただきたい。現在は委員の皆さまに公開しているということになる。
4. この文面ごと、今委員の皆様に届いている場合は、上記の手順にて配信されたこととご理解いただきたい。

内容に関しては表紙に書いたように 2 つの事案がある。

第 2 回の検討委員会で、委員長から「基本コンセプトに関しては、E 委員からもアイデアを」という趣旨の発言があった。これに関して私なりに熟慮し、まずは

1. 「基本コンセプトを考える」ということ自体が、全体の議論の中で「どういう位置にある重要案件なのか」の「状況理解」を全委員で行ってから議論したほうがより効率的でな
いか、と考え私案として次項の①「仮説・状況解説図」を作成してみた。

次に

2. 「基本コンセプト」のアイデアは第 1 回、第 2 回の検討委員会で、各委員の方々から素晴らしいアイデアのエッセンスが輩出されていた事実があるので、まずはそれらを私が少し短い文章にまとめてみるのが「今この段階の検証ステップとして最善策ではないか。」と考えた。

3. それが第 2 部の②「仮説・基本コンセプト 12 案」となる。

よって 12 案は皆さんのアイデアを私が「仮の言葉」にまとめた、という状況である。

もし「漏れているコンセプト」があったり「12 案事態の修正」や「新しい追加案」があれば事務局へお願いします。

4. 今後この「基本コンセプト」という大きな課題を、例えば「この 12 案をたたき台」にしていただき、高知県庁林業振興部様と(株)ウイン様と(株)リョウマコンサルタント様が事務

局としてどう絞り込んでいき、次回検討委員会をどう議事進行すべきかを、リードしていただくの良いのでは。と考えます。

(事務局として、委員長、D委員、I委員と事前にご相談いただいた方がいいのかもしれませんが)

5. その事務局のリード・お導きとともに第3回の検討委員会がスムーズに進行されることが建設的かと。

という状況で書いたものであります。というので、次のページをご覧ください。

①「仮設・状況解説図」

我々14人の委員が今、置かれている状況って、こんな状況でしょうか？Eが私案としてこさえた仮設の状況解説図です。皆様からぜひご意見を。

ちょっと、パワポの図で1つずつご説明いたします。

右上に、県知事がいらっしゃいます。県知事と一緒に、高知県林業・振興部が、いろんなことを、この14人を招集される前に考えておられたと思いますが、矢印が伸びていきまして、上段は、私たちが招集された時に書かれた文章ですが、①牧野植物園の有するポテンシャルを最大限に引き出し、②世界に誇れる総合植物園に磨き上げるための③基本構想を策定するため、検討委員会を設置するために14人が招集されました。

この時に1回、2回のモニター調査結果をお知らせいただき、あと、財団の皆様のご意見を拝聴しまして、第1回、第2回の我々の議論があって、そこで皆さんの素晴らしいアイデアがいろいろと出た。

「？」の下ですが、第1回、第2回で、14人の委員から様々な基本コンセプトのエッセンスが輩出されていると思います。

ただ、全体像を俯瞰してみると、基本コンセプトの少し上ですが、検証①この「設置目的」に対して満足できる基本コンセプトであるか？という事も、コンセプトを考える時に検証されるべきです。

その時に、左上にあります、世界に誇れるってそもそも何？という大きな疑問から、牧野植物園の中に、その根拠とか実態はあるべきだと思います。本当にそれ架空のものじゃないですよ、という確認事項があると良い。

あと、検証については、①が上なんですけれども、②ですね。その基本コンセプトは、1) 研究型植物園 2) 教育・普及 3) 憩いの場、これは一番最初に召集された時の言葉になっていますけれども、②その基本コンセプトは1、2、3の3つの領域全てが共有できる素晴らしい基本コンセプトであるのかがなかなか難しいんですけれども、本当は全部1個にするならそうしたいですね、という話が検証②です。

もともと、研究型植物園も、本当に磨き上げる課題って何なんだろうとか、その理想的未来って何なんだろうかっていう議論も、もちろん県庁や牧野植物園が、いろいろと検討

されていたとは思いますが、それから、教育・普及に関しても、磨き上げの課題って何だろうとか、その理想的未来は何だろうとか。あと、憩いの場も、その磨き上げ課題は何で、その理想的未来は何っていう事は、本当は設定しなければならなくて、なおかつその1) 2) 3) の課題の比重。何が一番重要で、それに対して、重要度に応じて予算に比重をつけていかななくてはいけないのではないかなという事が有り得ます。下に行きますと、実際、お金を使うということになりますと、検証③納税者・高知県民・議会の満足を得られる基本コンセプトであるのか？という事と、検証④「税金投入」→「投資リターン・見返り」の実態ははっきり形になるような、基本コンセプトであるのか？

それから、枠外に書いてありますけれども、「投資のリターンは、結局は、来場者数なの？」←いや、有形無形のものもありますよね、という論議もあって、あとやっぱり、県知事が仰っている「観光の4番バッター」っていうご発言も非常に重要だと思います。これはどうすべきか。検証すべきことが①②③④とあったうえに、欄外にもこういう2つがあって、本来であれば、すごい格好いい話でいうと、基本コンセプト1個にまとめればいいんですけども、なかなか多分1個にはまとまらないんだらうなどは思いつつ、例えば3つになると、お金を何に使うべきかは右下ですね。お金を具体的に、このコンセプトだからこのぐらい使おう、このコンセプトだからこれぐらい使える、このコンセプトだからこういう風に使おう、という風に具体的に。ここの真ん中が決まっていると分かりやすくなるんだらうなというのが、今の私たち14人が置かれている状況ですね。

次のページをご覧ください。第1回、第2回検討委員会で我々14人全委員から出たアイデア群、ご意見群、それを「第3回検討委員会がスムーズに進行されることを願って」という思いでまとめさせていただきました。それがたたき台で、13人の委員の皆様からこの仮説12案への「漏れている案」や「12案自体の修正」、それから「新しい追加案」は、やっぱりあるべきだと。しかし、いつまでも集めていると大変なので、事務局の林業・振興部様と、ウイン様とリョウマコンサルタント様が基本コンセプトという課題をどう絞り込んでいき、どう議事進行していくかをリードしていただいて、これは第4回になると思いますけれども、第4回検討委員会で、まあ、基本コンセプトを本当は決めたほうが良いんじゃないかと。

現実問題として12案プラスアルファを1案に絞っていき、その後それをもっと短い言葉開発のキャッチフレーズ化へ、ちょっと誰かがやるという事でしょうけれど、それは本当は1案に絞れなかったとすると、やっぱりメインとサブとかを一杯つけることが結論かな、という風に思います。というなかで、皆様のご意見をまとめてみました、というのがこの12個です。

仮設①世界一 秘蔵標本・秘蔵書物を誰でも素敵に体感できる秘蔵 OPEN 植物園

仮設②世界一 「植物」から (& 祈りの聖地五台山全体と共に)「命の不思議」を教わり「安らぎ」を世界発信する植物園

仮設③世界一 子供・高齢者・障がい者等が、遊べる (ちぎる・食べるも)・憩える・働

ける植物との幸せを一体を感じられる植物園

仮設④世界一 外国人がどうしても来たがる理由が（漢方薬とか、すごい種の秘蔵とか、そういうものがあって）、世界にそれが発信できちゃうような素敵な植物園

仮設⑤世界一 観光ルートとしての魅了を国内外に発信する事に徹した観光誘致型植物園。たぶんこれについては異論も色々あったと思うんですけども、異論とは別に、知事の仰っていることも、こういう事もあるのかなと。

仮設⑥世界一 地域住民（五台山周辺の方もそうですけれども、高知県民ですね）の来訪者数&人口比率が極めて高い地元に溺愛される植物園。というやり方もあるのかなと。

仮設⑦世界一 子供が植物学者を目指したくなる仕掛け・満載の子供大学植物園。ていうのも何かすごく新しくいいなあとか。

仮設⑧世界一 世界の植物学の権威が集い&地域に貢献する（さっきのコンベンションもそうですね）、学術循環型植物園ってあるのかなと。

仮設⑨世界一 「植物学」と「ゲーム世界」（バーチャルリアリティ、いわゆるデジタルですね）が素敵に融合した未来指向型植物園。という意見も出たと思います。

仮設⑩世界一 「女性」や「恋人」たちが植物の素敵さでときめく植物恋する植物園。という意見もちらっと出たと思います。

仮設⑪世界一 植物の力で様々なユニーク商品開発をする提案する植物園。まあ、企業様と何かコラボをされて、すごいパワーを、お金が儲かるというのもあるのかも知れないし、その資金で学術が進んでいくと。

仮設⑫世界一 牧野富太郎博士の魅力を、全力で伝えきる牧野先生徹底！情報発信植物園。大元は多分ここだと思います。

このように、皆様から第1回から第2回の検討会で出ました、①から⑫。皆さんと一緒に僕も体験して、仮設①の標本とか秘蔵書物とかは、これは絶対にオープンした方がいいなあ、とか、仮設②は、Bさんのお話を聞くとすごく得したなあ、とか。やっぱり子供さんとか高齢者さんとか障害者にすごく優しく植物と幸せが、すごく世界的に珍しく一体しているっていうのも新しいなあ、とか。あとやっぱり、外国人が来たがるというのは情報発信としてすごく新くなるはずなので、これを一つの大きなコンセプトに持っていっちゃうというのもあるのかなあ、とか。実質、観光ルートって言うのは切実な問題で、今県庁様として色んな課題だと思うので、それを全面に出していくっていうのもあるでしょうし、仮説⑥は、やっぱり地域住民の人がものすごく愛して愛してやまないという事を徹底するというのもあるだろうし、仮説⑦は子供さんですね、仮設⑧権威が集って、しかもそれが循環する。仮設⑨ゲームや未来を考える。仮設⑩は、女性とか恋人とか、実質デートスポットみたいな風にしていく方向。これが全面になるとは思いませんけども、コンセプトの1つ。⑪は商品開発。⑫が牧野富太郎さんをちょっと新しい形で全力投球。どれか1つに絞れって言うのは多分難しいんだって、僕もまとめていて思いますが、皆さんが第1

回第2回でご発言されたものを、なるべく短い言葉でまとめるとこういう事で、例えばやり方として、何か一步をすごく強力に進めて、あと2つをバランスよく配置して、予算配分とか課題基準をそういう風に比重に置く。その時に今日まとめて頂いたこの3つの施設がそれぞれこの目標に向けてそれぞれの施設が機能するんだ、というのを目指しますというのは、形としては美しいのかなと、また、議事が進まないと駄目だなと思って、おせっかいでまとめてみました。これについてはいろんな進行のことも含めてご意見があると思いますが、委員長とD委員には、今日これを提出することに了解をいただいたのでお話をしていることと、I委員からは事務局に返答のメールが来ていますので、それを読み上げます。

E様、まずはお忙しい中、検討の方向性の提示、定義、本当にありがとうございます。

検討プロセスに異存はありません。最適なプロセスと認識します。

仮設状況説明について補足する観点としては、県が知事の命を受けて絶対達成としないといけない短期・中期・長期の目標の数値をどう反映するか、そもそもそれは何か。

投資対効果を意識する。検証④「税金投入」→「投資リターン・見返り」の実態がはっきり形になるような、基本コンセプトであるのか？について。検証④の場所でよいのか。それとも、もっと上位にあるものなのか？もっと大切にされた方がよいのではないかというスタンスのご意見については県の皆様をご判断する部分かと思います。

リターン、意識する目標は来場者目標数、単価、滞在時間、満足度、総売上、地域全体の消費効果などでしょうか。

コンセプト案については、委員会で出てきたアイデアを網羅していて良いと思います。世界に誇れることは何かという事を、私も更に考えてみます。

というメールを、事務局で受け取っている。

皆様のご意見を全部ちゃんとまとめて一つに絞っていくというのは、非常に難しい仕事だなあと。だから、県庁さんのご苦勞がすごくよく分かります。ただ、理想は何なのかを決めないと予算配分は決まらないのかな、と思った。以上。

(F委員)

プレゼンに対する感想だが、委員長が示された、世界でなのか、日本でなのか、最も洗練された植物園というコンセプトで、全部は集約できるかなと思う。ややインパクトが薄く、陳腐であって、高知家ほどのインパクトはないが、世界一洗練された植物園であるというコンセプトを1つとして、その洗練とは何かという部分がある。例えば面白いのは、やっぱり地元溺愛であるとか、子供大学植物園なんていうのが洗練のひとつなんだということ言えば、ファミリー園というの、名前がださいのでもう少しネーミングも考えて、ファミリー園をつくるコンセプトの一つになるのではないかなと思う。未来志向型も、ファミリー園とVRとの上手な組み合わせができるんじゃないかなと思った。

(D委員)

ありがとうございます。すごく価値の高いものをご提案いただいているということで、改めて感謝申し上げます。それで、今の段階では色々な仮設に基づいてコンセプトをあげていただいて、今、F委員からあったように洗練されたというコンセプト。私は前の会議の時にも申し上げたとおりなんです、最終的にコンセプトを英語で表現していきたい。多分、洗練だと **sophisticate** という言葉が出てくると思うが、これは英語に置き換えてみても非常にフィットする言葉でいいと思う。一方でやや具体的に、そのコンセプトをここに掲げていかないといけないので、E委員の提案をずっと見ながら、自分なりに、自分自身が提案するとしたら、というのであまり魅力的ではないが、世界一〇〇な植物園というヒントが与えられている。そこに入れるとすると、植物の価値を高めるという事と、植物で地域の価値を高める。これが並列で並んでいても、非常にわかりやすいかなと。もう1点言うと、世界一植物の価値を高め、世界一植物で地域の価値を高める植物園、というパターンも結局、12案ほとんどそれに関わっているような気がする。1つの提案として発言をさせていただきたい。

(委員長)

他に何か、アイデア、ご意見はあるでしょうか。

(他、委員)

なし

(委員長)

前日、私は(牧野植物園が)総合植物園の中に博物館機能を持っていると申し上げたが、植物園の第1の価値は、価値の高い植物を持っているということで、博物館も価値の高い資料を持っているということが一番の基本だと思う。そこにインプットがあったものを利用してアウトプットする。それは研究であったり、教育であったり。それから、木がたくさんあって緑があり、癒しの効果であったり、コミュニケーションであったり、要はアウトプットになる。その時に、インプットもなくてアウトプットだけするとすぐに枯渇してしまうという事を申し上げたが、先ほど申したように植物を沢山持っており、その価値を利用していろいろなことをやる拠点に、ここの植物園を高めていくっていう事ではないかと思う。もし大学であれば財産を持っていれば、自分たちで8割から9割を使って研究したり教育したりするが、ここは植物園であり博物館であるとするれば、2割か3割ぐらいを中で研究して、その研究成果を含めてサービスするという事で、そのサービスを質の高いサービスにするというのが、洗練されたという事ではないかと思っている。しかし、サービスをするためには、いいサービスを提供するという事ももちろん必要であるが、人が来てくれないといくらサービスを提供すると言っても、接点が無いと、人を集めるという事にもある程度の努力を払ってもいいと思う。

秘蔵の標本や秘蔵の書物が書いてあるが、植物園らしい植物資産や、博物館らしい資産を集めて、これを活用するのが基本であって、それをいかに活用していくか。資産自体はかなり世界に誇れる部分があると思うが、その上手な使い方ができたらよいのではないか。

(E 委員)

12 案なるべく皆さんに平等におっしゃったことをまとめたつもりなので、何かご不満とか新しいご意見とかもあると思うが。

(B 委員)

世界一。これは外せないだろうと思うし。D 委員がおっしゃったように、超一流というのは洗練されたという所にも通じてくると思う。この五台山の山の上がすごい充実して、その成果が麓へ流れ出る、といったような。それが D 委員がおっしゃったように、後にそれは地域に貢献するものになっていく、そういう植物園のあり方だと。私は世界一、超一流、これを目指していく植物園。具体的には何かといたら、D 委員がおっしゃったような言葉だろうと感じた。

(E 委員)

なるべく皆さんにご発言いただいたほうがよろしいかと思う。

(H 委員)

ありがとうございます。すごく分かりやすい。高知の人は、世界一とか一番っていう事が本当に大好きなので、意味が分からなくても世界一の植物園と言われると、それを聞いただけで、「牧野植物園はすごいね」と言うのが、すごい目に見えて分かる。やっぱり世界一というのは外せないと思う。先ほど副委員長がおっしゃった世界一植物の価値を高め、世界一植物で地元の価値が高まる植物園というのはすごく分かりやすく、全部に網羅している。世界一、は高知県民の心をくすぐると思う。

(G 委員)

ありがとうございます。世界一というのは良い。世界一のあとに何かあるんだけど、私の個人的な意見だと、学問とか植物学の権威というのもすごい、世界一もそう。すごく高い所にあり、だから憧れたりするんだけど、逆にそれが自分の手の平にあるというか、すぐ身近にあるのが牧野植物園で体感できるという、そんな感じのものであればよいと思う。

(A 委員)

まさに、今言われた、世界一植物で価値を高める、植物の価値を高める、そういう植物

園だと思う。非常によくまとめられたご意見である。

(C 委員)

世界一〇〇で異存はない。まとめて世界一植物園らしい植物園とか良いのではないかと。

(F 委員)

メディア側から言うと、足摺の海洋館のリニューアルコンセプトも確か世界一の水族館にするというコンセプトだったと思う。またかという気がしないでもない、という留保は言っておく。

(E 委員)

皆さんの一回目、二回目のものをまとめるとこういう事、という事で今日またご意見が2つぐらい、洗練された、と世界一植物の価値を高める・植物で地域に貢献する。私も少し予想はしていたけれども、実は12個をまとめていて、やっぱりどこか1つに絞るとなると全部が網羅できない。今、洗練されたとか、貢献するとか、何か全部をまとめて言うようなコンセプトに、議会对応も含めてやらざるを得ないんだろう、という予感はしていた。今日いらっしゃらない委員の方からも、例えばさっきのF委員から話のあった、Iさんが委員をされている足摺海洋館のかぶりの問題もある。しかし12個まとめると、世界一洗練された植物園とそういう風になるのだろう。世界一植物の価値を高める、植物で地域に貢献する、長くなるが身近でという気がする。

田所部長、もちろん県庁の中で、今日の意見があって、知事と何かディスカッションをされて議会に臨むという事になるんですか。これを実行していくためにも。

(事務局：林業振興・環境部長)

そういう場はあると思う。

(E 委員)

そうですね。一番短絡的に考えると、例えばD委員のお話で、私の世界一というのと、世界一植物に貢献する、植物で地域に貢献する、というコンセプトで施設を3つ（ファミリー園、スタディ園、研究棟・お宝展示館）つくるけれども、そのコンセプトに合うように、この3つをどういう風に予算配分や比重も含めて、磨き上げていくかという事で、具体的には12個のアイデアが、それぞれに当てはまるものがある。施設1にはコンセプトの2と5とか。人材、宝には、これとこれがコンセプトだとか。分かりやすく言うと子どもたちの植物大学というのは、宝の人材を育成する拠点になるだろうし、皆さんが出されたものがそれぞれの施設の基本コンセプトにばらけていくというか。ただそれらをまとめる案が1個ほしいということになると、今、お二人がおっしゃったような、ひょっとした

ら他にも I 委員が案を出されるかもしれないが、そうした進め方が現実的と思うがどうか。

(D 委員)

結論としてそういう事だと思う。幸い、今日の意見分布も拝聴をしていて、全員ではないが、さっきの世界一をコンセプトに合うような意見が、色々と聞かれた。それで横串を刺して行って、矛盾の無い形に最後に仕上げていくという事だと思う。それと今の段階では、このコンセプト自体まだあまりキャッチーな言葉ではないため、少し具体的に、さっき申し上げたような案でもう少し魅力を訴求しないといけないのかなど。ジャストアイデアであるが、資料 3 にイメージ図があり、サントリーの京阪名のワールドリサーチセンターというのが写真として貼ってある。ここには 3 回ほど行ったが、これはサントリーからインスパイアされると、サントリーは水と生きるというコピー、それとかぶせていくと、植物で生きる、植物と生きる、とかそういった言葉がバーンと 1 つ出てくると、牧野らしいなという感じがする。「で」なのか「と」なのかが難しいが、そういうキャッチーな言葉は E 委員が 1 番得意な分野ではないかと思った。

(委員長)

さっき G 委員もおっしゃったけれども、すでにかなり世界一的な部分はあるけれども、これはこれで高めなきゃいけない。でも、これをやるだけだと利用者との間が離れてしまうため、内部では頂点を目指していき、世界一にアクセスできたり、直に触れたりというように、利用者にはそれができるだけ利用されやすいようにするイメージや構造が出ればいい。そういう風に説明されるとよいのではないか。

(E 委員)

私が気になっているのは、多分 14 人の委員は知事に招集されたと思っている。私は今日の会議の最終予想について、2 パターンあると思っていた。12 個の中、もしくは 13 個、14 個でもいいけれども、知事のことを考えると、そこから一番突出したもので 80% ぐらいのコンセプトを作って、あと 10%、10%、脇のコンセプト、そこに一点投下でガンと行って大きな波及効果を生むパターン。というのと、そうではなく最初に提示されたようにある程度バランスを持ちながら、それをまとめる言葉として F 委員や D 委員がおっしゃったようなまとめの言葉に入って、それぞれが世界一を目指しているという風にやるパターン。A と B があって、激しいのは A である。80% は野蛮だけれど、60% ぐらいを、例えば五台山と一緒に世界で発信できるぐらいすごい祈りと植物、例えば今日の 8K とか見ていると、本当に曼荼羅のような感じがして、それはめちゃくちゃ特異な状況で、特に情報発信を生業としている人間とするとやりやすいというか、特異な状況になっている。投資とリターンがはっきり出てくるような気もしないでもない。とはいえ障害者の方や地元の方のことも考えないといけないので、それをどういう風にランドデザインとして県庁及び

知事が考えているのかっていうのは、結構重要かというところもある。こうやったらいいじゃないかと無責任に言うことはできる。というのは、今日的には A でどうしても特化して、強いものとサブ2つぐらいで行くべきなのか、それともやっぱり 12 個全部まとめて今言われたようなまとめに行って、それぞれの館にはそれぞれのコンセプトを1つずつはめていくと行ったほうがいいのか、それはご判断なのかな、と思っていた。

(牧野記念財団)

キャッチコピーを考えるのは非常によいと思う。ただ、世界一と言う場合は、委員長もよくご存知だと思うが、研究でも博物館機能でも教育展示でもまさに突出した植物園はあちこちにある。そういうものをイメージした時に、本当に世界一に向かってやっていくという決意で打ち出していただければ非常にありがたいと思うけれども、単に高知県民が世界一が好きだから世界一と言っておけばいいという考え方では、あとをやる方は大変である。また、もしそういうコピーを採用されるのであれば、おそらくすごいお金をかけていただけると。だから 100 億円のロープウェイが高すぎるからできないと言うのでは、世界一を目指すようにならないのではないかと。世界に飛ばたくとか、世界に輝く、それだったら可能だとは思いますが、世界一というのはいくら好きであったとしても簡単には言えない。そのあたりを十分に考えてキャッチコピーをいただきたい。園を運営する立場で申し上げます。

(E 委員)

そうですね。確かにおっしゃるとおりである。実はそれ、議論がありまして、言えないのではないかと、言うとは大変なことが起きるのではないかと。まあ、その時に目指すという事なんだろうなっていう事は言っていた。そのあたりは判断ですね。世界一からどこかにまた先行して流布されていくという事で、重荷を背負うっていう事であれば、そこは取り下げた方がいいというのはあります。

(牧野記念財団)

重荷を背負うという、そういう事ではないと思う。目指すというからには、それなりのアプローチを考えないといけない。アプローチを全く考えずに目指すというのは、単に言ってるだけで、非常に説得力が薄いと思う。そのあたりを十分に考えていただいて、単に目指すだから何でもいいじゃないかという立場に立つのか、やはりきっちりここまではやろうと、それをキャッチフレーズにさせていただくのか、そのあたりをしっかりと考えていただきたい。だからこのキャッチフレーズを出した以上はちゃんとやろうと。そういうものを是非出していただきたいというように、運営する立場からは考える。

(委員長)

説明としては、財産をより充実させて、それに基づく研究を中でやるという事と、それが表により良く伝わる手段として、人が集まれるような場所とか、人が使えるような施設を、この機会に増設しますという事が基本ではないか。そのために園地を広めるということと、建物を建てるということが有効であるというぐらいでないか。色々な事ができるというアイデアは今までに出していただいたので、あとは逆にどれぐらいの施設ができるかによって何ができるかって事もあると思う。

コンセプトについては、D委員のアイデアは非常に使いやすいと思う。うちの教授だった岩槻先生が、共生系というのを提案しており、人と自然が共生するという事で、コスモス国際賞を今年もらっている。植物園は、そういった共生を実現する一番よい場所だから、植物と生きるとか、植物と最高に生きるとか、そういう事をキャッチフレーズにするのがいいんじゃないかと思う。弱いですかね。

(E委員)

いえ。仮にまとめると、植物の価値を高める、植物で地域に貢献する、世界一はカッコにして、世界に誇る植物園、という風に知事がおっしゃっているとしたら、それを今度はコンサルティングとかプロポーザルを出して、キャッチフレーズを競合にかけるとい、プロモーションの事をやるというのは普通にある。良い意味で考えるというのもあるんだけど、それをどうするか。多分、今のまとめでいうと、植物の価値を高める、植物で地域に貢献する、世界に誇る植物園、これがそのためにこの資料1の3つの施設をそれに向かって走っていく、というように議会に説明していただき、それが例えば植物の価値を高め、植物で地域に貢献して世界に誇れる植物園になるためのファミリー園を作る。それと、お宝展示館も植物の価値を高め、植物で地域に貢献するお宝館を目指す。もう1つが、スタディ園も植物の価値を高め、植物で地域に貢献して、世界に誇れるようなものにするためにスタディ園を作る。ただ、これの予算比重であったりは考えなければいけない。皆さんの意見をまとめると、こんな形になるのかと。すいません、洗練されたというのはどこかに行ってしまったけれども。

(F委員)

世界一よりも洗練ぐらいが無難ではないかと思う。

(E委員)

なるほど。では、そこに世界に洗練して誇れるだといいいですかね。そのあたりはウインさんやリョーマコンサルタントさんとも話していただいて、おそらく具体的に言うと、12個の中で、スタディ園、ファミリー園に使えるコンセプトがある。そこを当てはめていくというイメージですかね。田所部長、どうでしょうか。

(事務局：林業振興・環境部長)

最後の下りのところは、ポイントポイントについてのコンセプトを今のところは考えてはないため、先ほど前段でまとめていただいた共通のところですっかり内容を練り上げていきたいと思う。

(E 委員)

最後に質問ですが、さっきのコンセプトに対する A 型の 1 つの尖った所にまとめるというのは、何となく知事や県庁の中であまり考えていないという雰囲気でしょうか。

(事務局：林業振興・環境部長)

そうですね。80 : 10 : 10 というよりは広く牧野先生の功績も知っていただきたい。

(委員長)

では、ここの意見分布は総合的に進めるという事でよろしいでしょうか。コンセプトにあたるようなものはどうしましょう。

(E 委員)

F 委員がよろしければ、仮的のところ、牧野記念財団がおっしゃったところで世界一は取り下げて、それをどういう風に入れ込むかを考えていただけたらと思う。

(委員長)

よろしいでしょうか。大変時間をとりましたがまとめていただきありがとうございました。それでは事務局にお返ししてよろしいでしょうか。

(事務局：林業振興・環境部長)

できましたら牧野一淳さんに最後にご希望を踏まえたご意見をいただければと思います。

(牧野アドバイザー)

私も、牧野記念庭園というところで運営に携わっている。いろんなお話を聞かせていただいたが、例えば委員長がおっしゃったように、インプットがないのにアウトプットばかりしてしまうと、枯渇してしまうという話。なかなかこれは大変だということを今感じた。また、ハウステンボスとかああいった所だと、がらっと変えてしまう。今までであったものを全部取り払って新しいものにする。変化ですね。だけど、ここはそういうわけにはいかなくて、やはり積み重ねたものを充実させ、変化ではなく変貌していくという感じなのかなという感想を持った。今日は聞かせていただきありがとうございました。

(事務局)

皆さま、ありがとうございます。予定を超えて、大変ご熱心にご検討いただき、誠にありがとうございました。1点だけ、事務局からご報告です。次回、第4回の委員会の日程については、年明け皆さまにまたご案内をして、調整をしたいと考えている。最後に林業振興・環境部、副部長から、皆さまにご挨拶を申し上げます。

(事務局：林業振興・環境部 副部長(総括))

今日はこういう素適な場所を提供していただき、誠にありがとうございました。感謝申し上げます。それから、長時間にわたり非常に熱心なご議論、ありがとうございます。お話を聞いていて、基本的なところはやはりマインドの部分、目指すべき所だろうと思うので、今日いただいた意見をもとに、これからまた事務局としてまとめていきたい。それから具体的な話になるが、12月で用地関係の予算を出していきたいと考えていて、それから具体的にどんな事をやっていくのかが、来年の当初予算の関心になってくるため、次回の検討委員会には整備費の事とか、あるいはどういう所へどんな内容で整備するのかという事を少し具体的に示したうえでとなれば、具体的にもう少しイメージが深まってくると思うので、よろしく願いしたい。また、そのあたりでいろいろとお気付きの点やご意見等があれば、事務局へ提案していただけると非常にありがたい。次回は来年になるが引き続きよろしく願いしたい。今日はどうもありがとうございました。

(事務局)

これを持ちまして、第3回牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会を閉会します。皆さま、長時間お疲れ様でした。ありがとうございました。

閉会